理学部科目の履修における CAP 制の導入について

【ご質問・ご意見】（投稿日：2019年6月23日）

令和元年達示第40号によりますと、京都大学通則に「第18条の3 1. 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、当該学部の定めるところにより、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるよう努めるものとする。2. 特に学業優秀と認めた学生その他特別の必要があると認めた学生については、当該学部の定めるところにより、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。」という項目が追加されました。また、学生意見箱「令和元年度達示40号・京都大学通則の一部改正について」の回答によればこの達示は「学内会議及び各学部からの意見を踏まえ、教育研究評議会で決定し」たものであり、「各学部において、令和2年度以降の全学共通科目及び学部専門科目を合わせたCAP制の導入を検討してい」るとのことです。

これに関して理学部に質問と意見があります。

（質問1）理学部において、この通則の通りCAP制を導入する予定はありますか。

（質問2）もし導入する予定があるならばそれは具体的にどのような内容ですか。また、第2項の「特に学業優秀と認めた学生」とはどのような学生ですか。

（質問3）理学部としてこの達示に関して教育研究評議会にどのような意見を提出しましたか。

（質問4）理学部として「各年次にわたって適切に授業科目を履修」させるために「履修科目として登録することができる単位数の上限を定める」ことは適切な手段だとお考えですか。

（意見）

京都大学理学部の特徴として「理学科のみの1学科制」と「緩やかな専門化」が挙げられています。実際、私の実感としては入学当初に進む系をはっきりと決めている学生は少数です。多くの学生は複数の系が提供する講義を受け、2年間をかけて自分の進むべき方向を見極めているように感じます。この状況は理学部の理念に沿ったものと認識しています。ところで、その状況を実際に担保しているものはなんのでしょうか。複数考えられますが、ひとつは1、2回生の段階で上回生配当の講義を受講することができるシステムと雰囲気です。複数の系で迷っていて、かつ意欲のある学生は上回生配当の講義を受けて各系について知識を得て、選択に役立てています。さて、理学部科目にCAP制が導入された日には、そのようなことが不可能に（あるいはしにくく）なってしまおうでしょう。現在の具体的な行動は、たくさんの上回生配当を含む講義を履修登録して、もし、自分の能力が足りなかった・思っていたものと違った、といった場合には履修取り消しをして次年度以降にリベンジする、というものだからです。履修の上限単位数が定められた状況で、履修取り消しを半ば前提に上回生配当を

履修することはしにくくなります。私はこのような選択の幅を狭めるシステムの変更は、学生の学習権を侵害するだけでなく、学生と学問分野のミスマッチすら引き起こしかねないものであると憂慮しています。

また、別の観点から、現実的には1単位あたりの学修に必要な時間が学年の進行に伴って増大する傾向にあるということが挙げられます。例えば量子力学の初歩である「量子力学A(2回後期)」と量子力学の高度な内容を取り扱う「量子力学特論(4回前期)」の単位数はどちらも2ですが、これらの内容が同じ時間で学修できると考える人はいないでしょう。「重力特論(4回後期)」が2単位だからといって、一般相対性理論を90時間で理解することができたらその学生はアインシュタイン以来の大天才です。学年が上がるにつれて高度な内容を扱うようになる理学の性質からして、単位あたりの時間を定めてそこに制限を設けると言うのはナンセンスだと思います。特に課題研究科目等は、扱う内容もレベルも個人によってばらつきがあります。これを一律に制限することは学生の自主的な学習を妨げる危険すらあります。

最後に付け加えるなら、自分の学ぶべきことを自らの力で認識し、それに自分で計画を立てて邁進するということが学生の本来的な姿ではないでしょうか。大学がそこに「適切に履修するために」といって制限を設けるのはお節介ですらあると考えます。現在、理学部としてCAP制の導入を検討しているのであれば再考願います。

【回答】(回答日:2019年8月5日)

(理学部)

(質問1)理学部において、この通則の通りCAP制を導入する予定はありますか。

導入の可能性を含めて検討中です。

(質問2)もし導入する予定があるならばそれは具体的にどのような内容ですか。また、第2項の「特に学業優秀と認めた学生」とはどのような学生ですか。

現在、検討中のため、内容は未定です。

(質問3)理学部としてこの達示に関して教育研究評議会にどのような意見を提出しましたか。

この達示に関して教育研究評議会には特に意見を提出していません。

(質問4)理学部として「各年次にわたって適切に授業科目を履修」させるために「履修科目として登録することができる単位数の上限を定める」ことは適切な手段だとお考えですか。

上限の設定の仕方によりますが、基本的には適切であると考えています。

いただいたご意見に関してですが、まず「緩やかな専門化」という理学部の教育理念を尊重することは重要と考えており、ご意見は今後の検討の参考にさせていただきます。また、「1 単位あたりの学修に必要な時間が学年の進行に伴って増大する」というご指摘については、個々の科目については担当教員にもよるとは思いますが、原則としてはどの科目も所与の時間で達成できるようにシラバスが作られていますので、その意味では1 単位あたりの学修に必要な時間は学年とは無関係であるものと考えています。